

ぼくにもできる人権

甘木小学校5年

上野 恭介

「最大の人権侵害は、戦争だよ。」

夏休みの宿題の人権作文を書くこうとしていたら、お父さんが言った。どうということだろうと思った。「人権」という言葉自体は聞いたことがある。でも、お父さんに「人権の意味は？」と聞かれたときに、うまく答えられなかった。「人権」という言葉の意味が分からないことには、人権侵害も分らない。そこで、ぼくは、まず「人権」という言葉について調べてみることにした。「人権とは、人が生

まれたときからもっている権利のこと。人が人として安心して生きていけること。」という意味があった。だけど、戦争によって、生まれながらもっている権利がうばわれてしまう。うばわれるものって何だろう、できなくなるこ

とってなんだろう。ぼくはもっと考えた。まず、命がうばわれる。ニュースで、爆弾や拳銃で、たくさんの人の命がうばわれているのを見たことがある。そして、衣食住がうばわれる。家や畑が壊され、ご飯が食べられなくなっている人がいる。さらに、家族がうばわれる。空襲に巻き込まれて家族と別れたり、お父さんが兵隊になって戦地へ行った歴史がある。ほかに、自由に遊べない、自由にスポーツができない、自由に自転車に乗れない。たくさんさんの自由がうばわれ、安心して生きることができなくなってしまふ。そして戦争は、人が人の命を奪う。日常では許されることではないのに。だから、人間が人間らしく幸せに生きられない。考えてみて、分か

った。やっぱり、戦争は最大の人権侵害だ。

ぼくは、自分の身の回りでも人権について考えてみた。この前、お母さんから、

「あなたのしていることは、いじめだよ。それこそ、弟の人権を侵害しているよ。」

と言われた。ぼくは、いつもちよっかいを出してくる弟にもやもやしている。ある日、弟の友達から「ラジコンがあるから、恭介君は来ていいよ。」と言われ、弟をのけものにして遊ぶうとしてしまった。友達とぼくだけで、おもちゃをさわりたい気持ちはある。だって弟は壊すかもしれないから。でも、弟を仲間外れにしてはいけないという気持ちもある。

「あなたが修ちゃん立場になったらどう？ 同じことされてうれしい？」

お母さんから言われて、ぼくは考えた。いやだ。ぼくに足りないのは、相手の立場になって考えることだと気づいた。これも、大切な人権だ。仲良くするためには、相手の立場に立って、自分がされたらどうか、自分だっ

たらどうしてほしいかを考えることが大事なのだ。だからぼくは、これからは、弟と友達の仲をつなぐお兄ちゃんになろうと思った。

「人権」はまだすっかりとは理解していないが、大切なのは、自分がされたら嫌なことを、人にしないこと。自分も人も大事にすること。これならぼくにもできそうだ。

入選

それぞれの性格を認める

立石小学校6年

井上 央晴

人には色々な性格があります。ぼくは、どちらかというところを見て少しずつ進んでいくタイプです。だからすごく活発で元気がい子ばかりの中に入ると、あまりついていけない気になってしまいます。

勉強についても自分のペースがあつてすごく勉強ができる人には、スピードがついていなくて苦労することもあります。

だけどぼくは、後からはどんどん人にもなじめていくし、勉強も少しずつクリアしてい

くといつのまにかできるようになっていたことも多いです。

低学年の頃は後で自分ができるようになってからは知らず、みんなについていけないと思つて自信をなくしていたときに家族から、あと伸び型だから少しずつでもやっていたら、後から伸びていくという話を聞きました。それを聞いて、そういうのがあるんだと知り気持ち前向きになりました。

「みんなちがってみんない」とよく聞くけど、ほんとにそうだと思います。

たとえばぼくの周りでは、活発でクラスを盛り上げてくれる人や、スポーツや色々なことをがんばっている人、色々なことを知っている人、にがてなことあきらめずにがんばれる人など人それぞれすばらしい部分があります。

人それぞれちがうということは、意見もくちがったりもするけれど、自分の意見を相手に伝えて相手の意見もしっかり聞くとケ

ンカにならないしみんなが平和にできると思
います。

なのでどうしてもみんなの意見があわない
ことがあったとしても、そういう意見もある
んだなと思うようにして相手の意見も認め
ていけたらいいなと思います。

そして自分の意見も相手に伝えることで、
自分のことも自分で認めてあげるといいと
思います。

来年中学生になって、またさらに色々な友
達や先生に、出会ってつまずく事もあると
思うけど、自分は人よりできないとか自分
はだめだと思わずに、自分は後からできるよ
うになると自分を信じて前向きにすこしづ
つ進んで行きたいなと思います。

もしも周りにそういうなやみをもっている
人に出会ったら、やさしく話しかけていつし
よに、少しずつ進んで行けるようになったら
いいなと思います。

なのでさいしょからなんでもうまくできる

人も後から少しずつ進んで行く人も、どち
らもいいと思います。

今のクラスも色々な人がいてすごく楽しい
です。

性同一性障害を知って

立石小学校6年

村上 綾音

私は、ネット上で本人の代わりにキャラクターが登場して、歌う活動をしているグループが好きで応援しています。その中でも特に好きなキャラクターが性同一性障害だということを知りました。そのキャラクターのことを男の人だと思っていたけど、本当は体が女性で心が男性だったのです。私は性同一性障害についてあまり知らなかったのですが、このことをきっかけに、もっと知りたいと思いました。

世の中には、色々な人がいます。そして、色々なちがひがあります。例えば、かみの長い人と短い人、声の高い人と低い人。さらに、「ちがひ方」にもちがひがあります。目に見えるちがひ、見えないちがひ。変えられるちがひ、変えられないちがひ。自分と同じ人を探しても、世界中のどこにもいません。考えることも、好きなことも、大切なことも、一人一人ちがひのです。しかし、同じこともあります。それは「すべての人が自分の性について自分らしい表現でほこりを持ち、自分の望むように生きる権利がある」ということです。私は、この「性」についてさらに調べてみました。

性には、四つの性があります。一つ目は体の性と違って、生まれたときの性です。二つ目は心の性と違って、自分がどの性別と感じているかの性です。三つ目は好きになる性と言って、好きになる相手の性です。四つ目は表現する性と言って、服装や言葉づかい

など、「男らしさ」「女らしさ」の性です。私
が今まで知っていた性は、一つ目の体の性
だけでした。四つもあることを初めて知りま
した。また、調べていく中で、「セクシュアルマ
イノリティ（性的少数者）」と言う言葉に
出会いました。セクシュアルマイノリティの人
は、世界のどの地域、どの時代にも約三
五%いるというデータがあります。これを例
えると学校のクラスに一人いるということに
なるそうです。それを知って、より自分の身
近に感じるようになりました。

私が好きなキャラクターも、このセクシュア
ルマイノリティにあたります。この人も、自分
の性のことについて親に打ち明けたときは理
解してもらえなかったり、世間に公表すると
誹謗中傷にあっていたようです。しかし、そ
んなときに、温かい声をかけてくれたり、理
解しようとしたりしてくれた人がいたことで、
人それぞれ「らしさ」があっただけでいい、どんな自
分も胸をはれると思ったそうです。

私は、性同一性障害について調べて、色々
なことを知った今、どんな人でも受け入れる
心を持ちたいと思いました。また、自分が力
になれることがあれば手をさしのべ、不安を
少しでもなくしたいです。世の中も少しずつ
変わっています。それぞれの「らしさ」を認め
合える社会にしたいです。

「戦争の恐ろしさ」

金川小学校5年

上村 綾

八月六日の登校日、平和学習を学びました。今年の令和六年は戦後七十九年になっていて、とても年月がたちました。そんな七十年以上たった今でも苦しんでつらい思いをしている方々がいることを知りました。私は、戦争について、学校の授業で習った平和学習や、テレビ、ネットで見た知識しかありません。戦争について調べてみようと思いました。

原爆が投下されたのは、一九四五の八

月六日、午前八時十五分に米軍によって広島市に落とされました。そして約十四万人もの方々が亡くなりました。その三日後の、八月九日、午前十一時二分、長崎に原爆は投下され、約七万四千人の方々が亡くなられました。たった一つの原爆により、たくさんの方の命が無差別にうばわれました。なぜ、広島と長崎に原爆が投下されたのか。それは、造船所などの軍の重要施設がある場所で、空襲による被害が少なく、原爆の効果が確かめやすい場所だったからだそうです。アメリカは、当初、福岡県北九州市に原爆を落とす予定でしたが、北九州の上空にもやががかかっていたなどの理由で、第二候補地の長崎に落とすこととされています。原爆によって、たくさんの方が亡くなりましたが、日本を守るために、命をかけた方々がいることも忘れてはいけません。動画でしか見たことはありませんが、戦争に行かされ、死を覚悟し、家族に最後の手

紙を書いている方もいました。私はそれを見て、悲しい気持ちになりました。おねが苦しくなりました。戦争は、無差別に大勢の命をうばう、恐ろしいことです。お互いの命の大切さを知ることが、人権を守ることだと思います。

八月十五日、日本は戦争を終わりにするため、もう二度と戦争をしないと誓い、終戦記念日を迎えました。ですが、私は、なぜたくさんの方が亡くなられたのに記念日というのだろうか。命をかけて、亡くなられた方や苦しんで亡くなられた方々の命日なのに。と私は思いました。こんなに悲しく恐ろしい戦争は二度と起きてほしくありません。今は、日本では戦争は行われていませんが、世界の色々な国で、宗教のちがい、民族や文化のちがい、政権への不満、資源のうばい合いなどで、国と国の争いに、子どもから大人までがまきこまれ、食べ物不足したり、ケガをしたり、命がうばわれたりしているこ

とをテレビで知りました。今の私は、家族や友達、動物などとふれ合ったり、美味しいご飯を食べ、気持ちよくふとんで眠ることができています。あたりまえの生活、あたりまえに生きるということは、あたりまえではなく、一日一日を大切に生きていかなければいけないと感じました。日本で戦争を経験された方は、高齢者となり、貴重な話を聞くこともむずかしくなってくるかと思いますが、昔のことや、戦争の怖さから目をそむけず、しっかりと自分の中で引きついでいかなければならないと思いました。

動画で「フリーハグ」という活動をしている方を見つけました。その方は、日本だけではなく、世界各地で、路上などで、フリーハグと書いたボードを掲げ、見知らぬ人とハグをして、平和や人と人のつながりを訴える活動をされています。言葉が通じなくても、ハグをされているのを見ると、心があたたかい気持ちになります。世界中の国の人の人権

を大切にし、協力し、仲良くなって、戦争な
んでいつかなくなればいいな、と願っています。
六年生の修学旅行では、平和についてもっ
と深く知りたいと思っています。

フリーハグ（世界を抱きしめよう）